

2014 年度「しょうがい者と災害を考える」 ーしょうがいのある学生との学習会 減災 SW コラボ企画ー

しょうがい学生支援室

【日・時】2014 年 12 月 17 日(水) 14 時 40 分～16 時 10 分

【講義担当】減災ソーシャルワーク 吉村千恵先生

【参加者】13 名

【目的】あらゆる場所、場面において震災はある日突然やってくる。しょうがいがある人がその場にいた時、私たちがすべき行動や事前しておくべきことを考えてみる。

【概要】視覚しょうがいの学生がいるグループ、電動車いすを使用している学生がいるグループ、手動車いすを使用している学生のグループと 3 つに分かれ、グループワークを実施。

①付箋にどういう場面でどんなことに困るのか個々に書き込む。

②発表しながら広用紙に貼り付ける。

③グルーピング作業

④対応策の検討

⑤各グループ発表



ディスカッションの内容：まとめ

【グループ①】 視覚しょうがいの学生が参加したグループだったので、実際の災害場面で何が困るかを考えた時に、物が散乱して動けなくなることや点字ブロックのひび割れなどが予想され、こういったときに冷静に誘導してくれる人が必要。

【グループ②】 手動車いすの学生が参加しており、エレベーターが停止した時の不安や、避難訓練の意識付け、備蓄の確認。特にトイレにはオムツなどの備蓄が必要。

【グループ③】 電動車いすの学生が参加し、学内MAPの作成や減災の勉強会の機会を増やす、大学から災害対策を公表するなどの改善点を提案。



【支援からの感想】各グループの意見から、いざ大学で災害に遭った時にいろいろな問題点が見えてきた。これらの意見をまとめて、さらに減災につなげるように引き続き活動していき、多くの皆さんにも関心を持ってもらいたい。当日集まった学生の所属する学部や学科、学年、もちろんしょうがいの有無など異なるがそれぞれが真剣に災害に向き合い、考える時間となった。今後もこのような学習の機会や減災のための提案など、展開していければと思う。



《サポーターフォローアップミーティング》

【日・時】2014年11月4日（火）、5日（木）、6日（金）16時20分～17時50分

【対象者】サポーター登録59名中現在活動者の43名

【テーマ】『もしサポート中に震災にあったら…』

【方法】グループワーク



ディスカッションの内容：「サポート中に地震などの災害にあったらどう行動するか」

【チーム名：ぎょーざ★】

- ①一緒に避難。②学内放送を聞いて冷静に対処する。③先生の指示、支援室の指示を仰ぐ。
- ④車いす通路の確保。⑤車いすは置いていく。

【チーム名：ホッチキス】

①安全な場所、避難口を見つける。②けがをしないようにタオルとかで安全を確保する方法をとる。③自身の安全を確保しつつ、利用者と避難をする。④移動が困難な時は周りの人に協力や助けを求める。

【チーム名：カルシウム】

①机などを移動させ逃げ道の確保をする。②貴重品だけを身につけて身軽にする。③冷静に行動する。④「一緒に手伝って下さい」呼びかけをする。⑤救助を待つことも大事。⑥はぐれない。⑦事前に訓練をする。⑧事前に利用学生さんと話しあう。

【サポーターの感想】

- ・みなさんも自分と同じような不安を抱えていてそれを話し合い対応策を知れたので安心した。
- ・災害の際の避難方法については今まで考えたことがなかったので、良い機会となった。
- ・災害時に自分が居合わせたらどのように行動したらいいのか分からなくなってしまうので、事前に避難訓練などに参加してそのような時に備えておくべきだと思った。
- ・どう支援をすればいいのかしっかりと考えることができた。
- ・身近な話しなので、日頃からしっかり考えてこのような意見交換をしていきたい。
- ・発表では思いつかなかったアイデアもあった。